◎向日市民憲章◎
1　住みよいまちを力を合わせつくりましょう
1　きれいな緑と水と空を守りましょう
1　働くよろこびと心のふれあいを大切にしましょう
1　すぐれた教育と文化を育てましょう
1　明るいくらしと福祉のまちをきずきましょう

広報 向日市

No.220
昭和55年1月15日

◎発行　向日市役所（京都府向日市寺戸町中野20）
◎編集　広報広聴課　◎電話　075(931)1111

昭和53年度 一般会計 決算額は53億円

緊縮財政の中で有効的な運用

昨年九月に開かれた市議会で、昭和五十三年度の一般会計、特別会計の決算が認定されました。根強い不況とインフレで地方も国も大幅な財源不足となっていますが、市では財源の重点的・効率的配分に努め、昭和五十三年度の一般会計では、実質収支約二百五十四万の黒字となりました。

◆一般会計の規模と収支

五十三年度一般会計の決算額は、歳入五十二億六千七百九十六万二千円（前年度比千八十万二千円、〇・二%の減少）、歳出五十二億四千九百九十一万七千円（前年度比四十七万九千円〇・一%の減少）です。

したがって、差引き千八百四万五千円の黒字となっています。

しかし、この中には、前年度からの繰越金二千八百三十六万八千円が含まれていますので、単年度収支では、これを差引いた千三十二万三千円の赤字となっています。

また一方、五十三年度中の財政調整基金のとりくずし額二億三千五百三万四千円に対して、同年度中の基金積立額が二億四千七百八十九万千円だったため、基金の積立額がとりくずし額を千二百八十五万七千円上回ります。

その結果、実質単年度収支は、差引き二百五十三万四千円の黒字となります。

◆決算額の減少理由

一般会計決算の規模は、社会経済の発展、市民生活の向上にともなって、行政需要が増大しているため、年々増加しています。ちなみに昭和五十一年度は約十九%の増加、昭和五十二年度は約二十一%の増加となっています。

しかし、昭和五十三年度は若干ながら減少しています。この主な原因は、五十三年度より公共下水道事業分（歳入八億三千七百二十五万五千円、歳出八億二千九百十二万九千円）を特別会計として分離したことによります。

◆行政比重について

歳出決算状況をみると、民生費（二一・九%）、総務費（一九・七%）、教育費（一六・二%）、衛生費（一三・二%）、土木費（一一・六%）の順になっており、民生・教育部門に行政比重がおかれています。

53年度決算報告
市民の暮しに直結した行政の推進を

民秋市長

私は、前の任期におきましては、昭和五十年四月、市長に就任して以来清潔で明るい市民本位の市政を目指し、住みよいまちづくりを進めるため取り組んできましたが、昭和五十三年度は前の任期の最後の年であり、残された施策実現のため全力を尽すと同時に、継続事業についても将来の展望と軌道を明らかにするよう努力し、任期中の事業のしめくくりを図りました。

ところで、私の前の任期の就任当時の厳しい財政危機は、任期の最終年度にまで及び、減速経済情勢の中で各自治体の要請にもかかわらず、地方財政の改善策も打ち出されておりません。私は、何とか本市の財政危機を脱却できないものかと、行財政の運営の効率化に意を注ぎ努力を傾注してきました。

このため、昭和五十三年度の財政運営に当っては、可能な限りの歳入の確保を図り、実施事業の選択をして、財源の重点的・効率的配分に努めつつ、特に不況下の市民の暮しに直結した緊急事業に意を用いました。

そこで、基本施策の三項目、すなわち「市民のくらしの周辺の環境整備」「市民の福祉と健康を守り高める」「教育と文化の充実」を三本の柱として、緊縮の中にも積極的な施策の推進を図るべく、当初予算額四十二億八千百二十万円でスタートしました。

その後、施策の財源となる市税、地方交付税の伸びによって、市民の福祉を高める事業のため補正を図り、健全財政を堅持しながら歳出予算規模を五十二億五千六百八十万円とし、当初予算に比べ九億七千五百六十万円の増としました。

昭和五十三年度の行政施策の各般については、市民のみなさんのご理解とご協力を得て積極的に事業の推進を図ることができたことは、誠に感謝にたえない次第で、ここに厚くお礼を申し上げます。また、今後もご理解とご協力をお願いします。

53年度の主な事業

I 市民の福祉と健康を守り高める

◇**老人福祉**　老人福祉センターにマイクロバス配置。敬老記念事業としてアトラクション開催。敬老・米寿記念品の贈呈。

◇**児童福祉**　第2保育所の増築など保育所施設の整備児童公園三か所の増設。

◇**健康**　成人病相談や健康教室の開催など成人病対策の強化。

II 市民のくらしの周辺の環境整備

◇**道路**　道路舗装工事延長二千九百二十九メートル。阪急新田上手踏切の改良など道路拡幅改良工事延長二百八十七メートル。歩道新設、カーブミラー設置。前小川・明神川・七ノ坪川・藪路水路などの改修整備

◇**都市計画**　税所公園を都市公園として整備。ひまわりの苗の無料配布、緑化ポスターコンクールなどの緑化推進。

◇**環境衛生**　防疫薬剤の斡旋、害虫駆除、野犬対策。騒音、振動、大気汚染、水質汚濁など定期的な監視測定。

◇**交通安全**　セーフティクラブの開設。正しいバイクの乗り方講習の開催。東向日駅前自転車置場の新設。

◇**消防**　消防ポンプ自動車一台購入。四十立方メートルクラス防火水槽三基設置既設防火水槽の有がい化。消防事務室の一部増改築。

◇**農業**　水田利用再編対策の実施。老朽ため池改修、農道整備、かんがい排水整備などの農業基盤整備。

◇**商工**　中小企業振興融資制度の融資枠の五千万円増額。

◇**清掃**　分別収集方式の実施。塵芥収集車二両、オープンダンプ一両の更新などによる不燃可燃ゴミ収集体制の充実強化。

III 教育と文化の充実

◇**学校**　第3向陽小学校昇降口改修による教室の増設などの施設整備。

◇**社会教育**　公民館講座・高齢者教室・図書室の充実埋蔵文化財の発掘。

◇**保健体育**　各種スポーツ教室の充実、指導員・スポーツ少年団の育成。

以上が昭和五十三年度の基本施策となった、三本の柱ごとにまとめたものです。なお、詳しくは二、三ページをごらんください。

ふえる市の負担

五十三年度決算については、先にみたように、実質単年度収支では、黒字決算となっています。

しかし、ここでもう少し詳しく市の台所をみてみましょう。

歳入の中に市債というものがあります。この市債とは、国や銀行などからの借入金、すなわち借金です。

この市債は、五十三年度は約二億八千万円もあり、歳入の五・四%を占めています。

つまり、五十三年度の黒字決算は、市債のうえになりたっているといえます。

この市債は年々増加しており、五十三年度末の市債現在高（市債の累積）は、一般会計三十億八千八十五万四千円にもなっています

市民一人あたり 約11万円

また借金に準ずるものとして、乙訓土地開発公社、山城学校建設公社の債務負担行為による借入金があります。これは、公共用地の先行取得や学校建設を市に代って行ってもらい、その資金を公社にかた代りしてもらっているものです。

この借金（債務負担）の額は、五十三年度末で、二十四億九百八十九万五千円にもなっています。

この結果、借金総額（市債と債務負担額）は一般会計だけで五十四億九千七十四万九千円にもなり市民一人あたり約十一万円の借金となります。

消防出初め式

▷とき　1月15日（祝）午前9時
▷ところ　市役所前・競輪場内
▷内容　記念式典・分列行進
一斉放水
（雨天の場合は記念式典のみ）

成人式

▷とき　1月15日（祝）
午前10時～正午
▷ところ　市民会館ホール
▷内容　式典・記念講演（関西学院大教授　田中國夫氏）

日本人の歴史と文化を火災から守ろう

1月26日　文化財防火デー

わが国の文化財は、木造建築や木製・紙製の工芸品が多く、また、人家の密集地にあるものが多いため、常に火災による損失の危険にさらされています。

一年のうちでも、冬場と春先は火災のシーズンです。

私たちひとりひとりが注意して、日本人の歴史と文化の軌跡を示す文化財を炎の魔の手から守りましょう。

■向日市消防本部・教育委員会■